

わが物とおもえばあだに過すなれ
賜ものなりし此のいのちをば
聖句
弁栄上人



第 75 卷 465 号

<http://canchiin.net>

Email. shinsei@canchiin.net

平成29年 1月15日
1・4・7・10月15日発行
発行所 真生同盟本部
〒105-0011
東京都港区芝公園
2-2-13 観智院
振替 00160-6-80674
電話 03(3431) 1450
編集兼発行人
土屋 光道
会費部 年額 2,000円
100円

光寿無量

あらたまの光の中に新たなる
年を迎えていやあらたなり
歎びの光の御名を称えつ、
祈りまつなり君がみさかえ

平成二十九年元旦

弁栄上人

観智院名誉住職 真生同盟主幹
増上寺教監
住職

土屋 光道
土屋 正道
由恵・遙・法道

至心に勧請す

光道

私達が常に奉唱しています弁栄

上人の作られた「礼拝儀」はいず

れもまことに素晴らしく尊い祈り
のお言葉です。

至心に勧請す

冒頭の「帰命章」に次ぐ「勧請
章」も、信仰者の祈りの核心とし

て称える度に感銘を覚えます。
三身即一に在ます如来よ。如来の
真応身は在さるゝる処なきが故に今
我身体は 如来の霊応を安置すべ

き宮なりと信ず 諸の聖者の心宮
に在しし如く 常に我等が心殿に
在らせ給え 今や己が身を献げて
至心に如来の霊応を勧請し奉る
霊応常住に我心殿に在まして
転法輪を垂れ給え。

本堂や仏壇、あるいは神棚に仏
様や神様をお祀りする以上に、私
自身の身体、わが心殿に御本尊を
お迎えしお祀りします。どうぞ、
過去に現われた尊い聖者方のお心
に宿られたように、常に私の心殿
にお宿り下さいませ。今まさに仏
様の霊応をお迎えしお祀りします。
どうぞ末長くおとまり下さって
この私を教えお導き下さいますよ
うに。

簡潔な短いお言葉ですが、身も
引締り、我が願いながら、何と尊
い祈りかと感動いたします。かつ
て、観道上人は、昭和四年七月号
の真生誌巻頭に、「礼拝儀」と題
して、

「この弁栄上人のお言葉は、決
して単に御上人たゞ御一人の祈

りの言葉ではない。

此の上人の祈りは、またそのまゝ、私共各人の祈りそのまゝ、なくてはならぬ。」と云われています。

善導大師、法然上人が安心の第一に挙げられる「至誠心」「真実心」と云うのも、要するにこの心でありましょう。

観道上人は続けて、

「如来を心殿に宿すとは、自らの心の中に常に如来を念じて止まないことだ。如来を念すれば如来は常に我を離れず、念に従つて常に各人の心殿に宿り給う。

しかるに、近頃の人々を見るに、口にこそ此の礼拝儀を誦すけれども、その多くはたゞ口のみにして、真に之を行わんとする人がないようだ。これでは真実の礼拝儀とは云えないではないか。それ等の人々に如来の霊応が宿らないのもまた無理からぬことである。」

と厳しく誠められています。

かく申すこの私自身、唱えている時は、まことに弁栄上人のお心のまゝに、心底そう信じてお願いしているのですが、お恥しいこと乍ら、常にその心でいるかと問うならば、むしろ、仏様を離れ、わ

が心殿に仏の霊応どころか、悪鬼、邪霊が住みついて、俗念煩惱の巢になつていくことが多い。まことに悲しい凡夫の性でございます。いかゞすべきでしょうか。

法然上人は、

「凡そ此の真実の心は、人ごとに具し難く、事に触れて少やうき心ばえ也。愚かにはかなしと、誠られたる様も理有る也。無始より此方、今身に至るまで、思ひならはし、さしも久しく心を離れぬ名利の煩惱なれば、断たんとするに、やすらかに離れ難きなりけりと、思い救さるゝ方も有れども、又救し侍るべき事ならねば、我心を顧みて、誠め直すべき事なり。」

(往生大要抄)

と、決してあきらめたり、赦してはならないと誠されています。

しかし、法然上人は、凡夫のそうした心情をよくよく御存知で、そうゆう凡夫を救うことこそが仏様の御本願であることを我々にお示し下さるのでした。さらに、

「すべて我等が輪廻生死の振舞は、只貪瞋痴発らば、尚悪趣へ往くべき迷いの起りたるぞと心得て、是を止むべきなり。然れどもいまだ煩惱具足の我等なれば、かくは心得たけれども、常に煩惱は発るなり。発れども煩惱をば心の客人とし、念仏をば心の主としつれば、あながちに往生をば障えぬなり。煩惱を心の主として、念仏を心の客人とする事は、雑毒虚仮の善にて、往生には嫌われる、也。詮ずる所前念後念の間には、煩惱を交うと云うとも、かまえて南無阿弥陀仏の六字の中に、貪等の煩惱を発すまじきなり。」

(和語燈録「七箇条起請文」)

まことに凡夫の心情を良く御

推察の上で、しかも煩惱を恐れず、あくまで念仏を心の主人として、大切にすれば、煩惱の客人はいつしか去って行く。それが、主人公の阿弥陀様がお留守だと、煩惱の悪人が空き巣に入ったり、居付いて勝手な振舞いをする。御主人公の仏様がちゃんと居て下されば、たえず訪れる煩惱の客人などそう恐れる必要はないと仰せられるのです。いつもしっかりと念仏をして、主人公の阿弥陀様を離しなさんなと励まして下さる。

それ故に、「念仏為先」あるいは「一心専念」、「念仏申し申しの生涯」を我々にお奨め下さる法然上人の真意が、なる程と合点がよくわけです。

弁栄上人が、礼拝儀の冒頭に「至心に帰命す」を掲げて、お念仏の「南無〓帰命」の内実を説かれ、次いで誦經に諸大乘經典の中から浄土經第一の阿弥陀様の光明のお徳をお釈迦様がた、えた『無

量寿經」中の「光明歎徳章」を特
に選ばれて礼拝儀の中心におかれ
ましたことは、弁栄上人の深い御
信仰の洞察と、長い御研究の末に
選択されたものであります。そし
てその次に、この「勸請章」を配
置されたことには、上人ならではの
御深慮があつたからで、更めて
その炯眼に驚歎せざるを得ません。
ところで、

「勸請」という仏教用語は、辞
書によれば、
「うながすこと、神仏の来臨を
請い求めること。まことの心を
もつて仏に願つて説法を請い、
仏が永久に世に住して人びとを
救はんことを請願する意。新た
に神霊を移したてまつること。」
とあります。

お釈迦様が成道した時、梵天が
その悟りの内容を世に伝えるよう
に勧めた「梵天の勸請」は有名で
す。また、後世、法要の際に所定
の願文を誦し仏菩薩の道場への
来臨を請うことが屢々行われて来

ました。また、奈良東大寺大仏殿
の脇に、大仏建立を神託した九州
宇佐八幡の神霊を招いて、大仏鎮
護の為に「手向山八幡宮を造営し
て、神霊を勸請し祀つたように、
神社の主祭神に縁の深い神々を勸
請して、その神域に摂社・末社を
建てる事が多く行われた。

そうした、道場や神域に神仏の
来臨を請い願う勸請の用法を、弁
栄上人は、信者の身心の中に御来
臨を仰ぐ意味に使われたことは、
上人の深い信仰体験に裏付けられ
た独創的用法と思います。

法然上人、そして弁栄・観道上
人の教導の流れを汲む我々として、
この「至心に勸請」の祈りを真剣
に唱え、さらにその請願が一時だ
けに終わらぬよう、平常の専心念
仏の中に常に新たな願いとして
勸請して行くものではありませんか。
仏壇に仏像をお詣りしたり、床
の間に仏画を掛けて、時々眺めて
拝んだり、遠い十万億土の彼方に
いらして、死んでから会えるとい

う遠くて外にある仏様を頼りにす
るより、天地宇宙に遍満し、更に
この私自身の身と心に仏様を勸請
して、そのみ恵みとみ力によって

法然上人の末弟となつて

所沢市 酒井正空

この度、平成28年度の増上寺伝
宗伝戒道場（加行道場）を成満し、
浄土宗教師（僧侶）に叙任されま
した。伝宗伝戒道場はその名のと
おり法然上人より脈々と受け継が
れてきた浄土宗の法と、お釈迦さ
まから二千年以上受け継がれてき
た円頓戒を相承し、浄土宗教師と
なるための道場です。

この道場ではその両脈の相承に
向けて明け方から夜まで一日中勤
行もしくは教誡という行に徹底し
た毎日でした。私はこの加行に臨
むにあたって、辨栄上人が当時の
加行僧に宛てた「修行に参りなが
ら、時間ばかり費し、何の功もな
く過ごしてはつまらない、何にも

生き働きある自分に目覚めさして
頂く、その感謝と報恩の行に生き
て行く、そうした念仏一途の信仰
を貫いてまいりましょう。

他の用事なく唯々一心に加行に参
りしことなれば、一生懸命念佛し
て、三昧に入らなくてはならぬ。」
（『御慈悲のたより（上）』の言
葉を念頭に置き21日間を過ごそう
と決めました。

入行に際して常任加行係の先生
方から云われたことは、「加行は
それまでの宗門大学や養成道場で
経験してきた行とはまるで別物で
ある」ということで、実際に行が
始まるとそれは身に染みて感じた
次第です。元々私はメンタル面は
強くなく加行が始まった序盤で心
が折れそうになることが度々あり
ました。その時入行前に師僧から
賜つて拝読した中野善英上人の

『徳本行者』という書物の中で善

英上人が仰っていた「行は『信心』でやるものである。『信心の力』が鞭打って、ずんずんと自分に行をやらしてゆく。(中略)これは体がやらせるのではなく、信心がやらせるからである。いや信心がやらせるのでなく、加護し給う諸天善神の冥助、仏菩薩の大慈悲がこの善根を成就させ給うのである。」の教えを思い返し、自分がいかに自身の「体力」や「気力」で行じようとして無理をしていたかを痛感し如来さまに懺悔いたしました。

それ以後は勤行の一座一座、念仏の一称一称、礼拝の一礼一礼を大切にし、その一の中にも如来様の威力(みちから)と恩恵(みめぐみ)を念じ、また就寝時には辨栄上人の『礼拝儀』の「至心に感謝す」「至心に懺悔す」を上げて成満会までを過ごしてゆきました。

今こうして伝宗伝戒道場を成満することができましたのも、阿弥

陀如来を始めとした仏菩薩のご加

護、また辨栄上人、観道上人や善英上人が遺して下さったみ教え、我が師僧・土屋正道上人、観智院名誉住職・土屋光道上人の直接のご指導、兄弟弟子や念仏道友の方々のご支援あつてのことと存じます。そしてまた伝燈師・八木季生大僧正台下をはじめ、教誡師の先生方、私たち行僧と寝食を共にしご指導くださいました常任加行係の先生方、この場を借りて深く感謝申し上げます。

今後は私を浄土宗教師に導いてくださった御恩に報いることができるように自行化他に邁進していく所存です。そのためにはまず元祖・法然上人のみ教えである「ただ一向に念仏すべし」、また二粗・聖光上人の「結帰一行三昧」の実践を自らに課し、なお一層の精進を重ねていきたいと存じます。

南無阿弥陀佛

『老僧の独り言』

消火?配達? 元消防士の苦悩

多聞院 漫画図書館スタッフ 諸 澤 正 俊

「村八分」と言う言葉がある。

「仲間外れ」の代名詞として使われるが、真意は違う。ご存じの方も多いと思うが、残りの二分は「火事と葬式である」。つまり、どんなに嫌いで対立した関係であつても、火事と葬式には駆けつけなさい。それが人の道であるとの教え。消防士として4年間活躍したあと持ち前の好奇心と未熟な正義感故に、消防署をやめて郵便屋になった。それも同じ市内である。ある日、何時ものように鼻歌まじりに郵便を配っていると、突然けたたましいサイレンの音。まずい、この音はまずい。仕事上の義務か、人の道か?、火の手は近い。気がつくくと火事場に立っている。ホースは既に延びていて、筒先を持つている班長はつい最近まで

の上司。

「諸澤、良いところに来た。水を出すよう機関員に言ってくれ」と言う。水が出る前に、私は水を得た魚となった。消防車に駆けつけ、作法通り右手を高く挙げて、「放水始め」とやったから機関員は目を丸くした。自分に命令しているのは、どう見ても郵便屋である。

無事に鎮火して、未配の郵便を沢山抱え、ずぶ濡れになって帰局。今度は現在の上司から、「どうしたその格好は?」「人の道を果たしました」って言える訳がない。

消防署から郵便局に、感謝の連絡が入ったら、右手に感謝状、左手に懲戒処分辞令書となる。

東京の中心で仏の名を呼ぶ 第12回増上寺24時間不断念仏会



- ・24時間、ノンストップの念仏会です。ただひたすら「なむあみだぶつ」と称え続けます。
途中で五体投地や行道(仏さまの周りを巡る)による念仏も加えます。
- ・途中からの参加、中途での退場、中抜け、30分参加だってOKです。
お勤め帰りや観光のついででも歓迎します。真夜中でも構いません。
会場内には必ず誰かがいて、あなたと祈りをともにします。
- ・疲れたら控室で休みましょう(湯茶はどなたも随時摂れます)。
- ・長時間(概ね6時間以上)参加者で希望の方は修養証(参加証)を発行します。
- ・数珠や輪袈裟をお持ちでしたらぜひお持ち下さい(宗旨不問)。
僧侶の方ではれば黒衣・如法衣にて。

日時: 2017年5月6日(土)13:00~7日(日)13:00

会場: 浄土宗大本山増上寺 (港区芝公園4-7-35)

会費: 5,000円 (夕・朝食料金込)

但しショート参加(概ね2時間まで)ワンコイン

※ショート参加は食事の提供はありません

燈籠: ご志納 2,000円より (ミニ燈籠 500円は当日申込み)

※ ご来場でない方の献燈料は、

現金書留か郵便振替(00130-4-705649 観智院)で事務局にご送金下さい。

日程(変更することあり)

5月6日(土)

5月7日(日)

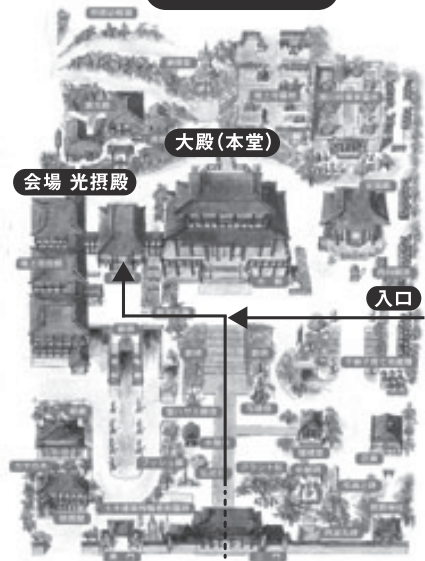
- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 12:15 受付開始 | 1:00 礼拝or行道 |
| 12:30 オリエンテーション | 5:00 礼拝or行道 |
| 12:45 開白(開始にあたり祈願) | 5:30 大殿朝勤行(希望者のみ) |
| 13:00 不断念仏開始 | 7:00~8:00 朝食(事前申込者) |
| 以降 24 時間ノンストップ | 9:00 礼拝or行道 |
| 17:00 礼拝or行道 | 10:00~11:00 増上寺紹介・境内拝観(希望者のみ) |
| 18:00~19:00 夕食(手打ちそば) | 13:00 結願(終了にあたり感謝と回向) |
| 21:00 礼拝or行道 | 14:00 解散 |

申込先: 24時間不断念仏会 事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園2-2-13 観智院内

FAX: 03-3431-7807 本行事特設E-Mail: nenbutsu24@hotmail.co.jp

芝 増上寺 境内



大殿(本堂)

会場 光摂殿

入口

正面入口(三門)

参道に燈籠を設置します。

詳しくは、ホームページへ
<http://canchiin.net>

【参加申込書】

私は 5月6日~7日に開催の不断念仏会に下記の内容で参加を申し込みます。

___月___日

お名前(ふりがな)		
連絡先	電話:	E-mail:
おところ	〒	
朝食 (○をおつけ下さい)	要・不要	朝食申し込みに限り5日〆切
参加予定 (○をおつけ下さい)	5月___日___時___分から___日___時___分まで(当日予定変更可) 7日午前 増上寺境内拝観 希望する・希望しない	
修養証	要・不要	(6時間以上参加の方は以上どちらかに○をおつけ下さい)
燈籠 願意 (希望者のみ記入)	(世界平和、震災復興祈願、自家先祖供養など随意)	

※ご記入の上、上記申込先まで Fax か郵便にてお送り下さい。E-mail の場合は、件名を 24 時間申込として、上記事項を本文に記載下さい。

法然上人二十五霊場巡拝 ①

法然上人、四国配流の足跡をたどる！

瀬戸内海を渡り、第2番 法然寺へ

御詠歌奉納と お念仏の2日間

2017.2.25(土).26(日)

本年より、法然上人ゆかりのお寺を巡る旅をはじめます。

御参加、おまちしております。

お問い合わせは 090-3240-3792

masamichi@t.email.ne.jp

観智院 仏教音楽教室

参拝寺院



法然寺 (第2番霊場)

法然上人が建永2年(1207)75才のとき、流罪をうけて、逗留されたのがこの地である。はじめ法然上人は小松庄正福寺におられたが、上人許されて帰京された後、その寺が炎上したために寛文年間(1661~1673)に、高松藩の松平頼重公が、上人縁りの寺の荒廃をなげき、仏生山の地に再建したものである。法然上人が塩飽島に着いた際、波の上の岩頭に立たれているお姿を表した「波乗りの法然上人像」が安置してある。山上には法然上人をまつる御廟、檀下に来迎堂、そしてねはん堂には、珍しい寝釈迦がある。

浄土宗 HP より



西念寺

法然上人の御遺跡に建立された名刹である。寺伝によると建永2年(1207)の法難によって讃岐国小松庄生福寺に遷された法然上人は土器川の東にあるこの丘陵地の風光が京都の東山に似ているのをめでられて、この地に草庵を営み念仏の教を説いて老若男女を教化されました。

寛文8年(1668)高松藩主松平頼重公は、この古寺を仏生山に移して法然寺と称し、その跡地に四條の真福寺を移し、その後丸亀の中津から西念寺を移し寺の維持のために寺田三反余を寄進された。新黒谷と呼ばれた西念寺の寺地には法然廟があり寺の境内には立華の名松が聳えている。

まんのう町教委等 設置看板より



専称寺

建永2年（1207）開祖である法然上人が法難に遭い、四国配流の途中、関白九条兼実公の領地であったここ塩飽本島に立ち寄り寓居した地に建つ。

極楽も かくやあるらん あらたのし

はや参らばや 南無阿弥陀仏

という御歌は、この地で上人の教化により、島中がお念仏の声に包まれた時に詠まれた、と言われている。



山門

来迎寺

建永2年（1207）法然上人がこの地に逗留された旧跡。本尊阿弥陀如来立像は慈覚大師の作である。



境内より瀬戸内海を臨む

旅 程 表

第1日

羽 田 9:30 発
ANA
高 松 (空港) 10:45 着
11:30 発
マイクロバス
昼 食
マイクロバス
13:00 着
法 然 寺
14:00 発
マイクロバス
15:00 着
西 念 寺
16:00 発
マイクロバス
琴 平 16:30 着
宿 泊

第2日

琴 平 8:00 発
マイクロバス
児 島 9:30 発
船
塩 飽 10:00 着
専 称 寺
来 迎 寺
塩 飽 12:35 発
船 (フェリー)
丸 亀 13:05 着
マイクロバス
高松市内散策
マイクロバス
高 松 (空港) 17:05 発
ANA
羽 田 18:25 着

定員 20 名

※諸事情により、行程が変更になることがあります。正式な行程表は申込の方にお渡しします。

2017年 真生会・観智院・多聞院予定

真生会東京本部例会 毎月4日・19日 11時～15時

(19日は13時半より「般若心経」写経または法話)

夕念仏の会 …………… 毎月第2金曜日 19時～20時半

松禅院 念仏会 …………… 毎月第1土曜・日曜 13時～ 比叡山飯室谷 (宿泊可)

書道教室 …………… 毎月第2・第4水曜 17時～ (8月はお休み、12月は第1・第3)

茶道教室 (表千家流) …… 毎月第2・第4土曜 10時から18時

そば打ち道場 …………… 毎月第4土曜 10時～

仏教音楽教室 …………… 毎月1回 (あるいは2回) 土曜13時

多聞院 老僧と若僧の念仏会 … 毎月第2・4金曜日 13時～15時

多聞院 不断念仏会 …… 毎月第4金曜日 18時～21時

多聞院 お寺の漫画図書館 …… 毎週水曜17時～21時、毎週土曜10時～17時

1月4日(水)	修正会、新年会	11時～15時
1月20日(金)	多聞院9時間不断念仏会	12時～
1月28日(土)	第25回 一千礼拝行	9時半～
2月11日(祝)	増上寺得度式	
2月14日(火)	鶴見念仏会 (西浦邸)	11時～15時
2月25日(土)～26日(日)	法然上人25霊場巡礼① 香川県	
3月3日(金)	別時念仏とご法話を聴く集い 東京教区	13時～16時
3月19日(日)	春彼岸会 (20日増上寺法話)	10時
4月3日(月)	増上寺詠唱奉納大会	
4月15日(土)～16日(日)	中野善英上人追善 松禅院念仏会	13時～
5月6日(土)～7日(日)	第12回 増上寺24時間念仏会	13時～
5月26日(金)～28日(日)	柏崎修養会 (未定)	
6月9日(金)～10日(土)	六時礼讃 別時念仏会・礼拝・写経	18時～
7月10日(月)～16日(日)	お盆棚経	
8月1日(火)～5日(土)	唐沢山阿弥陀寺念仏修養会 (4日例会休み)	14時～
9月5日(火)～7日(木)	比叡山松禅院仲秋念仏大会	13時～
9月23日(祝)	秋彼岸会念仏法要	
9月30日(土)～10月1日(日)	第6回 清浄華院24時間不断念仏会 (未定)	13時～
10月6日(金)～7日(土)	鎌倉大仏さま月夜の別時會	18時～
10月13日(金)～15日(日)	真生同盟本部大会	11時～
10月29日(日)	伊勢市慶蔵院大念仏会	9時～
12月17日(日)	タラレバ供養・ボーンブツ会	13時～
12月19日(火)	真生本部例会納め会	11時～